



【先週のメッセージより】 エペソ 6:10-20

「日々、武具を身につけよう」

私たちは、血肉に対するものではなく、サタンとその遣いたちに対する霊的なものであるが、では、私たちが戦っている戦場は何か。サタンが略奪した人の心、魂である。私たちは、イエスと共に、強い家の主人であるサタンを縛り、家財奪い返す尊い戦いの中に入れられているのである。

● **キリスト・イエスの立派な兵士として、私と苦しみを共にしてください。**というのはパウロがテモテに書き送ったものであるが、私たちが身につける武具は、単に自分の小さな信仰生活を守るためのものではなく、もっと大きな戦いにおいて、勝利するために与えられていることを覚えなければならない。

● **武具を身につける祈り** 前回のマナに朝のデボーションの時に武具を具体的に身につけるためのモデルの祈りを掲載したが、是非、意識的に、武具を身につけ、自分が何によって守られているか、意識しつつ歩むようにしたい。真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いの兜、ここまでは皆「防具」である。神は、攻撃のために二つのものを与えられている。一つは、御霊が与える剣である「神のみことば」があり、もう一つは「とりなしの祈り」である。みことばと祈りこそ、宣教の両輪なのである。

● **勝利の約束** この戦いにおいて、勝利がすでに確約されていることが土台となっていることを最後に覚える必要がある。ハデスの門は教会に打ち勝つことができないからである（マタイ 16:18）。同時に私たち自身は自分たちだけでは何もすることができない（ヨハネ 15:5）が、私たちが強くしてくださるイエスによってはどんなこともできること（ピリピ 4:13）を覚えたい。主イエスの再臨までこの戦いは続くが、主の再臨と共に、私たちは剣を鋤に、槍を鎌に打ち直す日が来る事を覚え（イザヤ 2:4）、勇敢に戦い続けたい。■

【聖霊との歩み（3）世界宣教】

しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレムユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。使徒 1:8

● 聖霊の働きは 1) 新生：人に罪を認めさせ、贖いの必要を知らせ、イエスの十字架を受け入れさせて救いに入れること、2) 聖化：人をキリストの似姿に造り変えるために内住し、御言葉を理解を深め、罪に打ち勝つ助けを与えてきよめることであることを今まで学んだ。

● 上記の新生・聖化は私たちの永遠に関わることであるが、この地上で与えられている使命を果たすことができるよう、聖霊は私たちに力を注いでくださるのである。神は私たちが手ぶらで全世界に出て行って宣教をするようにとおっしゃっておられない。必要なツールを与えて下さるのである。それが御霊の賜物（カリスマタ）と呼ばれるものである。

● 賜物のリストはローマ 12、1 コリント 12 に列記されている。私たちが生まれながらに与えられている気質や子供の頃から訓練されてきた能力に加え、主はさらに私たちが教会を建て上げ、世界宣教が前進するように、そして、一人一人のクリスチャンがこの世界の救済の戦いに参画することができるように賜物を与えてくださる。あなたに与えられている物は何であろうか。主に聞いてみよう！■

【今週の英語／若者に対するマックシェーンの薫陶】

● “Do not forget the inner man, the heart. The cavalry officer knows that his life depends upon his saber, so he keeps it clean. Every stain he wipes off with the greatest care. You are God’s chosen instrument. According to your purity, so shall be your success. It is not great talent; it is not great ideas that God uses; it is great likeness to Jesus Christ. A holy man is an awesome weapon in the hand of God.” -Robert Murry McCheyne

訳：内なる人、つまり「心」を忘れてはいけない。騎兵隊員は自分の命が自分の剣に掛かっていることを知っているのだから、剣を綺麗にしておく。細心の注意をはらい、すべての汚れを落とす。あなたは神の選びの器である。あなたの純潔さがあなたの成否を決める。神が用いられるのは、優れた能力、優れた発想ではなく、優れたイエス・キリストの似姿なのである。聖い人は、神の御手にあつて恐るべき武器である。ロバート・マレー・マックシェーン■